

ポータルシステム

SharePoint Portal Server 2003

株式会社 星光堂 様

社内に散在する情報の一元管理に向け SharePoint® Portal Serverを導入

「日常業務で扱うすべての情報の
一元管理を実現しました」

永岡 哲也 氏
情報サービス部 部長

「営業スタッフにとってポータルは
欠かせないシステムになるはず」

高橋 兼三 氏
情報サービス部情報管理課 課長

「社内の情報にアクセスする窓口として
利用が着々と活性化しています」

田部井 一記 氏
情報サービス部情報管理課

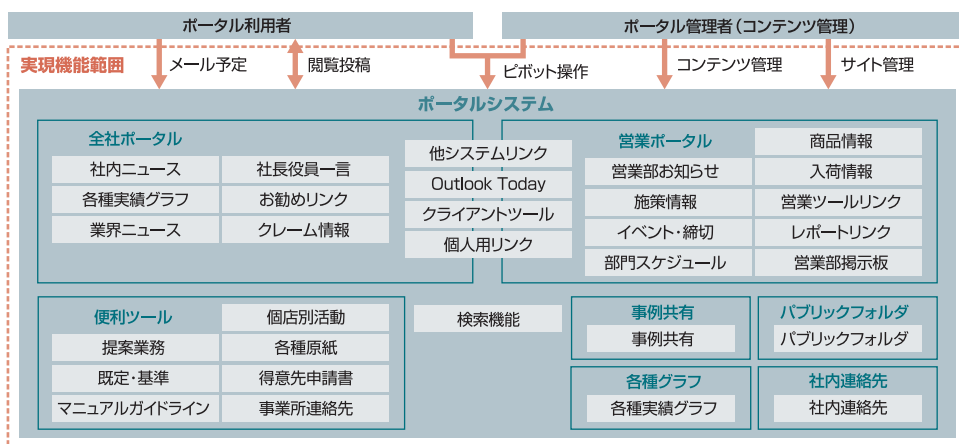
導入の背景

- 時流を反映した業務の革新が求められていた
- 従来の情報管理の仕組みは情報検索性が低かった
- 情報共有の高度化を実現したかった

事例のポイント

- 業務革新の一環でSFAの導入を検討していたお客様がポータルシステムの構築を決断
- ポータルシステムと既存IT環境 (Active Directory®, Exchange Server, Outlook®) との連携
- ポータルシステムと既存情報分析環境 (DWH/BIシステム) との連携
- グラフを用いた視認性の高いレイアウト
- NETの開発生産性の高さと、短期間での構築を実現

システム関連図



システムの概要

システム名称: 星光堂ポータル

システム概要: 情報を一元管理し、
検索性の向上と情報共有の高度化
を目的とした、全社員向けのポ
ータルシステム。Sharepoint
Portal Serverを基盤としている。

開発期間: 約4カ月

システムユーザー数: 400~450人

選定理由

- 課題に対する解決策として、SFAに固執しないポータルの企画・提案力
- Exchange Server/Outlookなど既存システムとの親和性の高さ
- 日本ユニシスにおけるポータルシステムの豊富な構築実績

利用ユーザーの声

- 業界ニュースが大変わかりやすく、日々閲覧しています。CD業界以外の情報も増えるとさらに良いと思
います。
- データの加工業務を行う際、これまでは情報検索システムで情報を抽出していましたが、ポータルから
直接ダウンロードできるようになり、業務時間の短縮につながっています。
- 日々の売上状況の把握や、売上進捗等がポータルを開くだけで可能になり、進捗確認・管理・分析が楽に
なりました。
- 成功事例から学ぶことも多く、実践的なナレッジとして活用できると感じています。継続的に活用してい
きたいです。
- 連絡先の一覧は、内線番号の検索やメールアドレス検索の手間が省け、業務効率UPにつながっています。
- 検索機能が優れており、どこにあるかわかりにくいファイルや原紙がすぐ見つけられるようになりました。

株式会社 星光堂 様

導入の背景

営業部門の情報共有の推進に向け、情報システムの構築に着手

CDやDVDなど、さまざまなエンターテインメント商品の総合卸売業務を手掛けている星光堂様。商品の流通のみならず、商品構成の提案といった付加価値サービスの提供を積極的に推進することで、今では1万1000以上の取引先を開拓してきた。しかし、より高度な付加価値サービスを実現するために、既存の情報システムがもつ課題を解決する必要があった。

「最大の課題は、蓄積された情報が膨大で検索性が低く、組織を越えた情報共有・活用が思うように進まなかったこと」と情報サービス部情報管理課の課長高橋兼三氏は説明する。

「営業部門全体として提案内容の質を底上げするためには、スタッフ全員の情報共有を推進する新たな仕組みが必要でした」（高橋氏）

同社はこうした課題を解決するため、システム構築に乗り出した。

選定理由

日本ユニシスの提案がポータル選定の決め手に、ポータルにBI機能も実装

星光堂様は当初SFA (Sales Force Automation) システムの導入を検討していたが、日本ユニシスの提案を受け、日常業務で扱う情報すべての一元管理を目的にポータルシステムの導入を決断。これを受けて日本ユニシスは、ポータル製品のMicrosoft SharePoint Portal Server 2003を既存システムと連携させ、Microsoft SQL Server™ (以降、SQL Server) に、DWHのデータを取り込んだ上でSQL ServerのBI機能を活用。それにより全社スタッフが情報をワンストップで収集でき、ポータル上で情報分析も行えるシステムを提案した。

情報サービス部部長の永岡哲也氏は、「日本ユニシスの提案が的確であったこと、さらにポータルシステムの豊富な導入実績を備えていたことを踏まえ、日本ユニシスにシステム構築を依頼することを決断しました」と述べる。

導入の効果

眠っていた情報の利用が活性化、知識レベルの底上げが可能に

星光堂様と日本ユニシスは2006年8月、システムの構築作業に着手。運用開始後も画面の設計変更を容易に行えるというポータルの特徴を活かし、まずは目に見えるものをつくって、そこから営業部門の声をもとに改善を加えていくという手法を採り入れ、ポータル内に表示するコンテンツの絞込みを進めていった。そして2007年1月、システムは本番稼働を開始した。

現在、営業情報の分析結果を視覚的に把握できるグラフと、業界の情報をまとめたニュースなどのコンテンツを中心にポータルサイトの利用は着々と活性化している。情報サービス部情報管理課の田部井一記氏は、「ポータルを整備したことで、これまでも社内貴重な情報があったものの、その存在に気づけなかったといった声が聞かれるようになりました。ポータルは社内の情報共有に着実に役立っているようです」と話す。

今後の展望

距離や時間を問わずナレッジにアクセス可能、業務高度化に不可欠な情報基盤に

星光堂様は今後、営業部門の声を参考に、ポータルシステムの機能をさらに向上させていくことを計画している。

「ポータルシステムを利用すれば、全国の拠点で仕事をしている社員が、距離や部門の壁を越えてあらゆるナレッジにアクセスできます。それがひいては、お客様への提案内容の高度化も可能にします。現在、ようやく『見ざるを得ない』状態が実現した段階で、今後はさらにポータルシステムのコンテンツの見直しを進めていきます。将来的には、経営側からプライオリティを提示して個々人の意思決定の精度を高める一方、ボトムアップでポータルシステムを活性化させていくことで、会社全体が『動かざるをえない』ようなシステムにしていきたいと考えています」（永岡氏）

日本ユニシス株式会社

本社 東京都江東区豊洲1-1-1
電話 03-5546-4111 (大代表)
URL <http://www.unisys.co.jp/>
E-mail dotnet-box@unisys.co.jp

事例インタビューの全文はこちら

URL <http://www.unisys.co.jp/dotnet/casestudy.html>